

「ZAIDAN Report」第11号では、「東北大学 高度教養教育・学生支援機構 ボランティア活動支援室」様の取り組みをご紹介します。

東北大学では、東日本大震災からの復興支援を始めとする様々なボランティア活動に従事されている学生グループが数多くあり、その中で、2024年度は「東北大学陸前高田応援サークル『ぽかぽか』」様、そして、2025年度は「東北大学インクストーンズ」様に当財団の助成金を活用いただいています。

本号では、東北大学におけるボランティア活動への取り組み、そして、学生の自主性を尊重しながら、安心・安全にボランティア活動が出来るよう学内の体制整備等を行っている「ボランティア活動支援室」様の取り組みをご紹介します。

東北大学におけるボランティア活動の概況

ボランティア支援方針

- 東北大学では、学生のボランティア活動への参加を、社会性を身に付け、主体的な問題解決能力を向上させる機会になると考え、活動に従事する学生を支援しています。

《大学が支援するボランティア活動》

- ①参加する学生が自発的な意欲で参加し、自主的に取り組める活動であること
- ②活動する学生および活動を行う団体の構成員以外の福利を増進するとともに、何らかの地域的・社会的な課題の解決や価値の創造に取り組む活動であること
- ③活動に参加することで、学生が教育や成長の機会を得られるような活動であること



【東北大学 川内キャンパス】

背景(東日本大震災)

- 東日本大震災の発生以降、多くの学生が地域の復興支援ボランティアに参加し、現在でもその活動は続いています。また、ボランティア活動の対象は幅広く、現在、子どもの学習支援や、地域おこし、スポーツや文化イベントの運営等の日常的なボランティア活動なども行われています。

ボランティアグループの現状

- 学生によるボランティア活動は、学生ボランティア団体としての登録団体(大学が設置する学生ボランティア活動支援委員会が承認した団体、2025年度 11団体)のみならず、サークルなどでのボランティア活動等、様々な形態で多くの学生が携わっています。
- このような中で、登録団体では、先輩から後輩へと当該団体の“アイデンティティ”や、ボランティア活動の“フィールド”、そして、“人との繋がり”も代々引き継がれ、継続的な取り組みが行われています。
また、東日本大震災からの復興に向けた支援活動から始まった団体では、復興フェーズの変化とともに、その活動内容も変化してきていますが、どの団体も『自分たちは、何のために、誰のために、どのような活動をしていく必要があるのか』を常に意識し、事前打ち合わせ・実践・振り返りを重ねながら、日々、真摯な姿勢で必要とされるボランティア活動を行っています。

「ボランティア活動支援室」について

【設立経緯】

2011年6月	「東日本大震災学生ボランティア支援室」を設置 (東日本大震災に係るボランティア活動を活性化)
2017年12月	高度教養教育・学生支援機構内に設置した、 「課外・ボランティア活動支援センター」に業務を移行
2025年4月	「キャリア支援センター」「学際融合教育推進センターの一部」 「課外・ボランティア活動支援センター」が統合され、キャリア・ 社会連携支援センターを設置 当該センターにキャリア支援室とボランティア活動支援室を設置

ボランティア支援の内容

《相談やサポート》

- ボランティア活動支援室は、学生の自主性を尊重しながら、学生が安心・安全にボランティア活動が行えるように、また、多様なボランティアへ関われるように、学内調整・体制整備、情報提供、相談対応、提出書類の確認、イベント・会議の開催などを行っています。
学生からグループでボランティア活動を始めるとの相談があった場合には、活動内容や継続性、活動先情報、非営利性などに加え、学内の登録団体としての活動意向も含めて確認し、相談者が目指すものに合った最適な形態等も一緒に考えています。



【ボランティア活動支援室】
ボランティアを行う学生が随時出入りをしています。

《学外からのボランティア募集依頼への対応》

- 学外からボランティア募集の依頼があった際には、学生の安心・安全な活動がしっかり確認できるまで団体先とやり取りを行い、その上で学生に周知・案内を行っています。

イベント運営

《ボランティアフェア》

- ボランティア活動支援室では、学生にボランティアに関する理解を深めてもらうために、学生ボランティア団体との“共催”で、毎年春秋の2回、東北大学内外のボランティア団体が一堂に会し、それぞれの団体の話を聞くことができる「ボランティアフェア」を実施しています。

《井戸端会議》

- 学生ボランティア団体(登録団体)と東北大学生が活動する学外団体(登録外団体)が、定期的に情報交換を行う「井戸端会議」を開催するとともに、この場で様々な情報提供を実施しています。



【ボランティアフェア 2025秋】
(チラシ)

ボランティア活動の具体例

ボランティア活動の情報発信

- ボランティア活動支援室では、前述の「ボランティアフェア」や「Webサイト」等を通じて、ボランティア活動に関する様々な情報を発信しています。
また、「ボランティア活動を始めたいけど、どう始めたらよいか分からない。」「部活動やアルバイト、授業と両立できるかが心配・・・。」など、学生の不安を解消し、ボランティア活動への第一歩を踏み出すサポートも行っています。

多様なボランティア活動

- 具体的な学生ボランティア活動としては、例えば、登録団体では、東日本大震災からの復興に向けたコミュニティ支援や震災伝承活動、農地支援が多くなっています。
また、それ以外でも、サイバーパトロールやポッチャの企画運営、小・中学生を対象としたロケットを介した宇宙教室など、様々な活動が行われています。



【ボランティアフェアの様子】
2025年秋はボランティア団体同士の相互理解を図ることに主眼を置いて開催しました。

ボランティア活動の一例をご紹介します！！



【秋田豪雨被災地支援の様子】2025年9月
(東北大学 SCRUM)



【ユニバーサルスポーツであるポッチャ(*)の体験会の様子】
(東北大学 公共空間ポッチャプロジェクト D&I)

(*)障がい者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目

【ペットボトルロケット教室・モデルロケット教室の様子】
(東北大学 FROM THE EARTH)



ボランティアグループ紹介

東北大学陸前高田応援サークル「ぽかぽか」

- 活動地域: 岩手県陸前高田市
- 活動内容: コミュニティ形成支援・地域活動の支援・伝承、情報発信

《太陽生命厚生財団 2024年度 事業助成先》

- ー 事業テーマ ー
地域コミュニティ形成の支援のために、サロン活動をする事業

【ボランティア活動の様子】



東北大学 インクストーンズ

- 活動地域: 宮城県石巻市
- 活動内容: 集会所でのサロン活動、地域イベントの支援、石巻でのスタディツアー

《太陽生命厚生財団 2025年度 事業助成先》

- ー 事業テーマ ー
石巻市における復興公営住宅の住民を対象に、サロン活動を通じたコミュニティ形成支援

【ボランティア活動の様子】



学生ボランティア活動をめぐる課題など

活動費の確保

- 東日本大震災からの復興関連助成金が少なくなってきたことから、ボランティア活動を行うに際しての活動費の確保

復興支援先とのコミュニケーションや復興ゴールの設定

- 復興支援先との意思疎通やコミュニケーションの行き違い
- 先輩から引き継いで活動を行っている復興支援先について、「どのような形になるまでその地域で活動を行うべきなのか」というゴール設定

資金面(助成金)でのサポート

- 助成財団などにおける助成金の複数年助成の導入など、資金面でのサポートの多様化
※学生ボランティア団体の特性として、毎年役職員が入れ替わることから、その変わり目で助成金申請が出来ないケース等あり

学外に視野を広げる機会の提供

- 学生が自団体・学内のみならず、大きく視野を広げるための機会提供(例えば、助成団体同士の交流機会への参加など)

今後に向けて…(ボランティア活動支援室)

- 学生自身がボランティア団体を自治し、活動内容や組織運営に関する議論を重ね、自ら活動費を工面しながら、主体的にボランティア活動を行っている現状は、月並みですが、とても良い状況だと思います。しかし、活動先や社会には多様な価値観を持っている人や場がある中で、ボランティアに向かうのは学生です。学生の純粋な気持ちで行う活動にも、万が一の場面が隣り合わせで潜んでいます。私たちボランティア活動支援室は、引き続き、学生の自主性を尊重しながら、安心・安全に活動ができるように見守り、そして、学内の体制整備や学生に向けた発信等を行っていききたいと思います。また、助成財団などには、引き続き、学生の活動に関心を持ち続けていただき、応援していただくことを期待しています。